

2022年度 卒業論文

「湯沢町の地方創生—スキーブームの衰退とこれからの未来—」

2022年1月18日

経営学科

(1740180399)

田中 航汰

明治大学経営学部

目次	頁
第1章はじめに	2
1-1 研究の背景	
1-2 研究の目的	
1-3 先進事例	
第2章 湯沢町について	7
2-1 湯沢町の概要	
2-2 湯沢町の人口、観光分析	
第3章 本論	13
3-1 湯沢町の魅力	
3-2 どのように多角化を図るべきか	
第4章 提言	26
第5章 結論	27
参考文献	
あとがき	

第1章 はじめに

1-1 研究の背景

1987年に映画「私をスキーに連れてって」が公開されてから、スキー、スノーボードブームが勃発した。そして沢山のスキー場が新しくオープンし、週末には多くの人でにぎわった。しかし、2015年12月1日に発行したマイナビニュースの記事によると、そこからスキー、スノーボードの人気は衰退の一途をたどっているようだ。図1を見てみると、スキー・スノーボード人口は、1998年に1800万人に達したが、その後は減少傾向に推移し、2013年にはスキー・スノーボード合計で770万人と、ピーク時の4割強へと減少していることがわかる。そして、追い打ちをかけるように国内にコロナウイルスが蔓延し、外出が制限されたため、より一層スキー場を訪れる客は減少したと推測できる。これらのあおりを受け、スキー場の稼働率や収益は当然のように低下し、1992年のピーク時に比べて2013年時点で30%台にまで低下してしまったそうである。そして、あいなく閉場してしまったスキー場も少なくない。そこで、スキー場を観光の軸にしてきた町はどのように対策をしていくのだろうか。

図1 国内スノーリゾートの現状；スキー実施率；スキー人口の推移



図1 (出典) 国土交通省観光庁「スノーリゾートの現状」

<https://www.mlit.go.jp/common/001257852.pdf>

1-2 研究の目的

この論文の目的は、かつてスキー・スノーボードとしてのリゾート地だった地域が、これまで通り衰退していくとされるが、どのように多角化を図っていくのかを明らかにしていくことだ。その中で、筆者は新潟県湯沢町を対象にしたいと思う。理由は、スキー、スノー

ボードの衰退はどの町にも当てはまることであるが、当町は首都圏からの交通アクセスの良さもあり、バブル経済期に多くのスキー場が開発され、スキーやスノーボードの町として産業を図り、成功した町で、典型例かつ先進事例であった為である。このようにスキー、スノーボードの人气が衰退していく中で、このままスキー、スノーボードに重点を置いた観光を続けていくのか、それともサマーシーズンなど、他の観光資源を活かした取り組みにしていくのかを明らかにしたい。スキーやスノーボードのみの観光資源に頼ることは現実的ではない為、多角化を図り、「スノーリゾートの湯沢町」を目指していくと考えているが、多角化をどのように行っていくかを明らかにしていきたい。

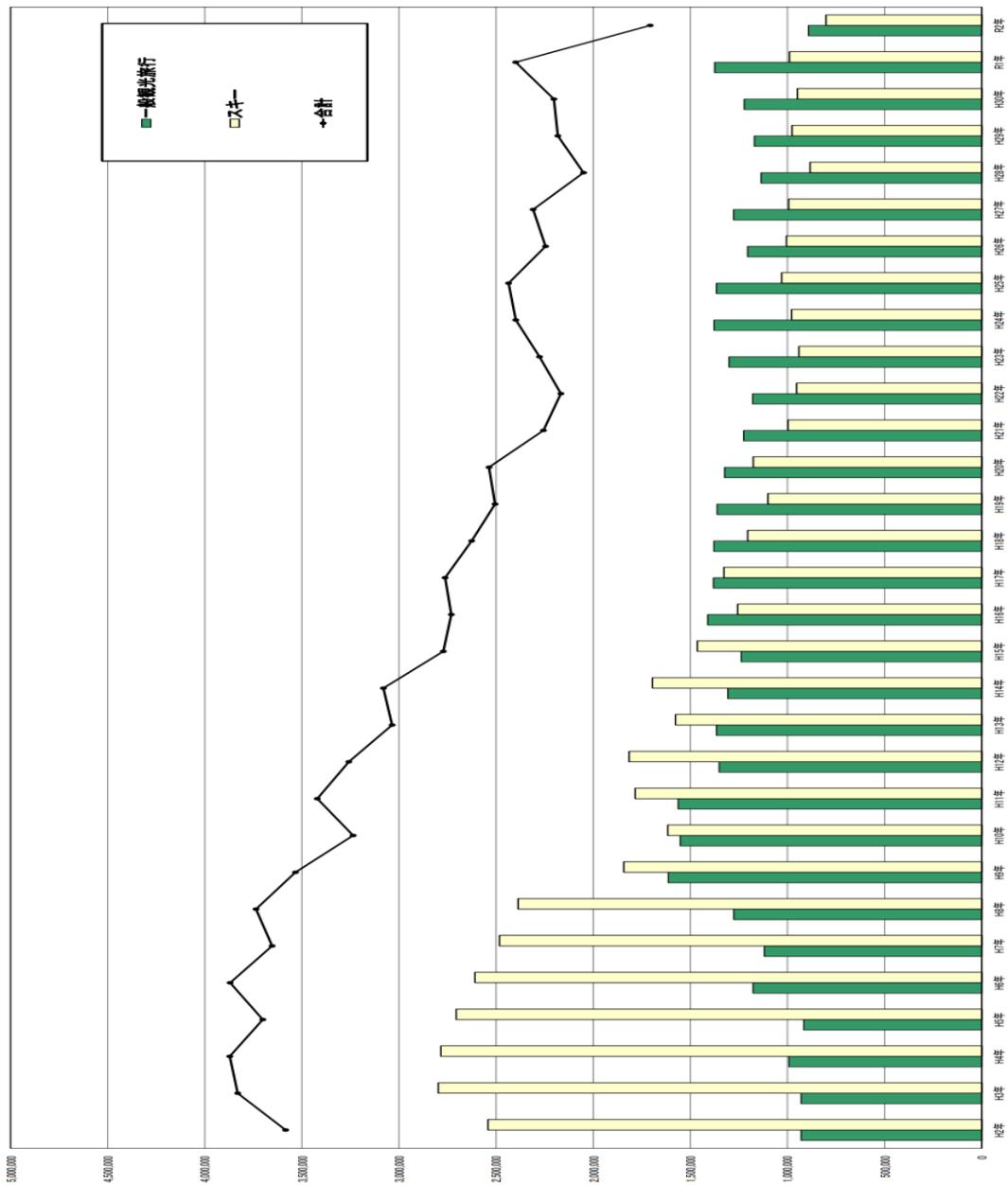
1-3 事例

かつてスキー・スノーボードの町として成功した町では、そうしたウィンタースポーツからの多角化が大きな一つのトレンドとなっている。その中で多角化に成功した事例として、長野県白馬村を紹介したい。白馬村は、長野県の北西部に位置する北安曇郡の村で、1998年に行われた長野冬季オリンピックで注目され、スキーリゾートとして人気の観光地になった。しかし、スキー・スノーボードの衰退が進み、1990年初頭に280万人ほど来ていた観光客が、2019年にはその3分の1の100万人ほどまで減少。2014年頃から10のスキー場が一体となってプロモーションを展開したことでオーストラリアなどの海外観光客を呼び寄せたが日本人スキー客の減少を補う程度にとどまっており、苦しんでいた。

そこで、白馬町の3つのスキー場を経営する「白馬観光開発」はサマーシーズンの観光者を呼ぶために、様々な集客施策が行われた。まず取り掛かったのは、サマーシーズンの施設づくりである。例を挙げると、夏には焼き立てのパンや冷えたビールを飲みながら北アルプスを一望できる「白馬マウンテンハーバー」である。

この施設がオープンした2019年、この施設がある白馬岩岳スキー場は昨年の292%の来場者を記録した。そして、2020年には標高1400mの山岳に絶景リラクシングテラスである「HAKUBA MOUNTAIN BEACH」がオープンした。北アルプスの絶景にサウナやジャグジーなどを設けた山にしながらビーチリゾートの雰囲気を感じられる施設である。そうした施設が話題となり、多くの来客を果たした。

図2 白馬村の観光地利用者延べ数の推移



¹出典：白馬村の観光の現状と課題

https://www.vill.hakuba.lg.jp/material/files/group/2/03_73905883.pdf

2021.11.12 アクセス

図2は白馬村の観光地の利用者延べ数の推移である。この図を見ると、H2年（1991年）はスキー客が250万人ほどおり、とても賑わっていた。そしてその年はスキー客がほとんどで、スキー以外の一般観光旅行は100万人もいない状況だった。しかし、平成20年すぎ

からスキー以外の一般観光旅行の客数は伸びており、多角化の効果が出てきている。そして、注目すべきは平成 30 年から令和 1 年にかけてである。1 年間で、200 万人ほど、一般観光旅行の客数が伸びていることが分かる。要因としては、上記にあげた白馬マウンテンハーバーの成功が挙げられる。令和 2 年はコロナウイルスの影響によって観光客が減少しているが、落ち着いてきてからは Go to キャンペーンの再開やインバウンド観光客などにより観光客の増加が期待できる。以上のことから、白馬村はスキー、スノーボードの依存から脱却し、多角化を図った成功例と言えるだろう。

第2章 湯沢町について

2-1 湯沢町の概要

新潟県湯沢町は、新潟県の中中部最南端に位置する町で、越後山脈に囲まれた山あいの町である。本町は、総面積 357 km²のうち 90%を森林が占めており、冬には 3m もの雪が暮らしを覆う日本有数の豪雪地帯であり、川端康成の小説「雪国」の舞台として有名である。その為、ウィンタースポーツのリゾート地としてスキー場などが開発され、首都圏からのアクセスの良さから人気を博した。有名なスキー場として、苗場スキー場やかぐらスキー場、新幹線の駅と直結しているガーラ湯沢スキー場などがある。こうしたスキーブームによってスキー客用のリゾートマンションが多く建設された町である。²

図3 新潟県地図



² 出典：湯沢町における観光に関する分析

http://blog.resas-niigata.jp/data/files/resas05_.pdf

新潟県の地図 Map,it

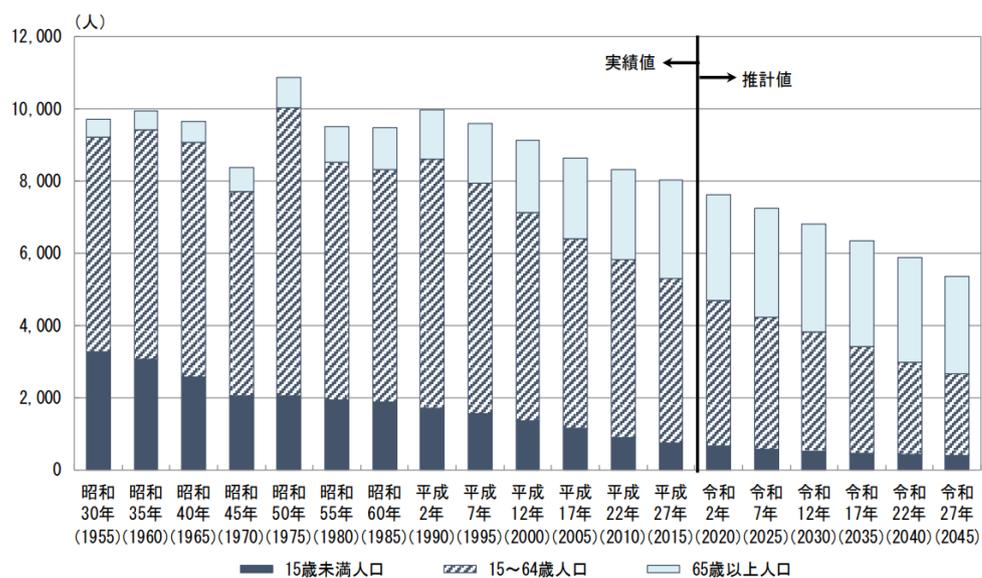
<https://map->

[it.azurewebsites.net/Map/%E6%96%B0%E6%BD%9F%E7%9C%8C\(%E5%B8%82%E7%94%BA%E6%9D%91\)/600x600/](https://map-it.azurewebsites.net/Map/%E6%96%B0%E6%BD%9F%E7%9C%8C(%E5%B8%82%E7%94%BA%E6%9D%91)/600x600/) 2021.11.10 アクセス

2-2 湯沢町の人口、観光分析

湯沢町の人口推移について調べていきたい。2021年10月時点における人口は、男性4063人、女性3093人の合計7966人となっている。図4の年齢3区分人口の推移を見ていくと、1990年の時点から人口は徐々に減少しており、2020年には8000人を下回っている。そして2045年には、人口が6000人を下回ることが予測される。そして、1990年時点では全体の2割にも満たなかった65歳以上の人口が、2020年時点では、およそ3割を超えており、少子高齢化が著しく進んでいることが分かる。そして2045年の予測では、65歳以上の人口がおよそ5割になっていることがわかる。図5は、新潟県内での少子高齢化の進捗具合を市町村ごとに比較したものであるが、湯沢町内は10位にランクインしている。このことから湯沢町は少子高齢化が進んでいる町であることが分かる。第三次産業が主流となっている湯沢町において、加速していく高齢化社会は非常に大きな問題となっている。その為、次の世代を担う後継者を湯沢町に移住させ、世代交代を図る必要があるように感じる。都心などから湯沢町に移住させるには高く、安定した賃金が必要になってくる。その為にも、湯沢町の経済活動を活性化させる必要がある。

図4 年齢3区分別人口の推移



4出典:

湯沢町人口データ更新版

<https://www.town.yuzawa.lg.jp/material/files/group/4/51009546.pdf> 2021.11.14 アクセス

図5 新潟県の老年人口（65歳以上人口）

(単位：人、%)

順位	市町村	令和2年7月1日現在						令和元年7月1日現在			順位	
		総数	人口			割合			割合			
			0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳		65歳以上
	県計	2,203,764	250,081	1,223,312	720,590	11.4	55.8	32.8	11.5	56.2	32.3	
	市計	2,129,826	242,304	1,185,016	692,811	11.4	55.6	32.5	11.6	56.3	32.1	
	町村計	73,938	7,777	38,296	27,779	10.5	51.8	37.6	10.7	52.3	37.0	
1	阿賀町	9,975	693	4,325	4,954	6.9	43.4	49.7	7.1	43.9	49.0	1
2	粟島浦村	353	42	157	154	11.9	44.5	43.6	10.7	45.2	44.1	2
3	出雲崎町	4,126	387	1,943	1,796	9.4	47.1	43.5	9.5	47.7	42.8	3
4	関川村	5,133	475	2,441	2,217	9.3	47.6	43.2	9.6	48.2	42.1	5
5	津南町	9,014	890	4,258	3,866	9.9	47.2	42.9	10.0	47.7	42.3	4
6	佐渡市	51,967	5,146	24,722	22,016	9.9	47.6	42.4	10.0	48.1	41.9	6
7	糸魚川市	40,667	4,020	20,215	16,374	9.9	49.8	40.3	10.1	50.2	39.7	7
8	十日町市	49,977	5,331	24,548	20,038	10.7	49.2	40.1	10.9	49.8	39.3	8
9	村上市	57,306	5,526	29,081	22,611	9.7	50.8	39.5	9.8	51.5	38.7	9
10	湯沢町	7,920	695	4,233	2,992	8.8	53.4	37.8	8.9	53.7	37.3	10
11	田上町	11,267	1,033	6,004	4,230	9.2	53.3	37.5	9.4	54.1	36.5	13
12	魚沼市	34,420	3,646	17,842	12,885	10.6	51.9	37.5	10.8	52.7	36.5	12
13	妙高市	30,682	3,159	16,057	11,440	10.3	52.4	37.3	10.5	52.8	36.7	11
14	加茂市	25,408	2,405	13,575	9,376	9.5	53.5	37.0	9.7	54.2	36.1	14
15	胎内市	28,260	2,996	14,864	10,341	10.6	52.7	36.7	10.8	53.3	35.9	15
16	五泉市	47,739	4,901	25,568	17,257	10.3	53.6	36.2	10.4	54.0	35.5	16
17	小千谷市	34,061	3,856	17,963	12,176	11.3	52.8	35.8	11.5	53.5	35.0	17
18	阿賀野市	40,627	4,502	22,053	14,038	11.1	54.3	34.6	11.2	55.1	33.8	18
19	柏崎市	81,468	8,643	44,721	27,700	10.7	55.2	34.2	10.9	55.5	33.6	19
20	南魚沼市	55,204	6,641	30,141	18,422	12.0	54.6	33.4	12.1	55.3	32.5	21
21	三条市	94,369	10,662	52,259	31,184	11.3	55.5	33.1	11.5	56.0	32.4	22
22	上越市	188,098	22,202	103,061	61,863	11.9	55.1	33.1	12.1	55.4	32.6	20
23	見附市	39,181	4,515	21,768	12,844	11.5	55.6	32.8	11.6	56.1	32.3	23
24	新発田市	94,656	11,203	52,475	30,685	11.9	55.6	32.5	11.9	56.1	32.0	24
25	刈羽村	4,485	573	2,443	1,443	12.9	54.8	32.4	13.1	55.7	31.3	25
26	弥彦村	7,725	925	4,313	2,485	12.0	55.8	32.2	12.2	56.5	31.2	26
27	長岡市	265,342	31,378	149,478	83,424	11.9	56.6	31.6	12.0	56.9	31.1	27
28	燕市	76,905	8,927	43,699	24,087	11.6	57.0	31.4	11.7	57.4	30.9	28
29	新潟市	793,489	92,645	460,926	234,050	11.8	58.5	29.7	11.9	58.9	29.2	29
30	聖籠町	13,940	2,064	8,179	3,642	14.9	58.9	26.2	15.1	59.1	25.8	30

※ 割合は、分母から年齢不明を除いて算出しています。
 ※ 同率の場合の順位は、表章未満の位で決定しています。

5出典：新潟県報道資

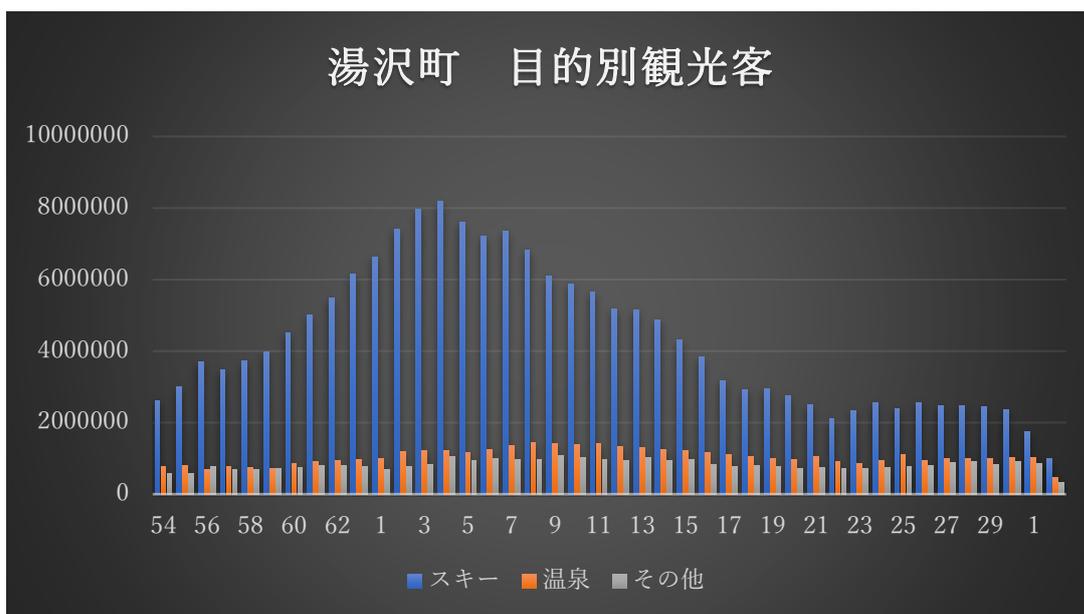
料令和2年9月15日発行

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/235965.pdf> 2021.12.1 アクセス

図6の目的別観光客調べについて見てみると、スキー、スノーボードの人気の平成12年頃のピーク時から低下していることがわかる。また、コロナウイルスが蔓延した2020年には、前年と比べておよそ5割の観光客にとどまってしまうことが分かる。

図6 目的別観光客調べ

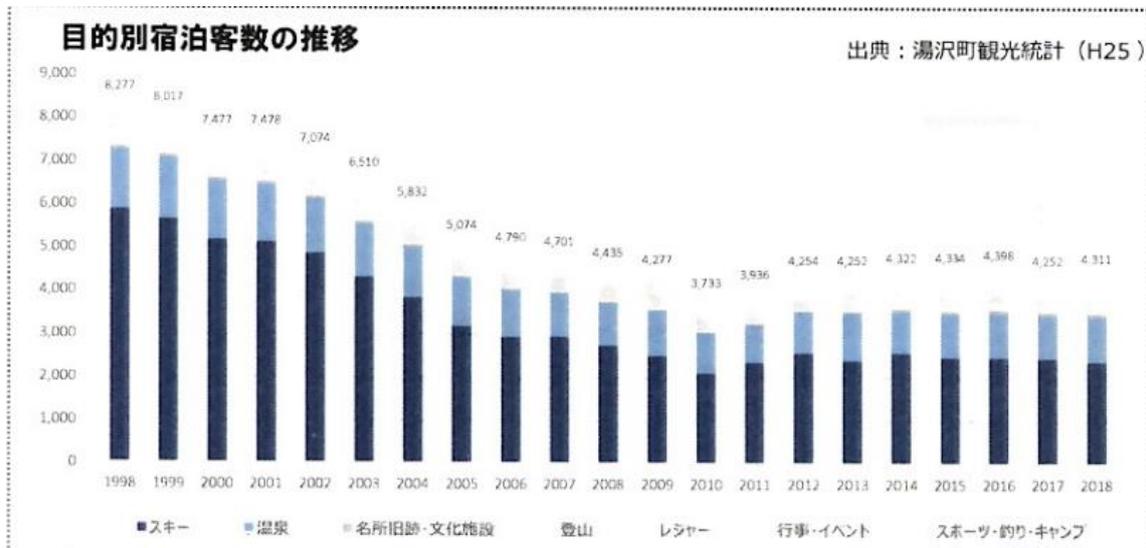
5 <https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/235965.pdf>



6出典：湯沢町観光統計を基に筆者作成

スキー人口減少の影響を受け、90年代800万人を超えていた観光客が2010年には半分以下までに落ち込んだ。2011年から微増したものの、近年は横ばい傾向で回復までには至っていないのが現状である。スキーの項目を見てみると、平成4年度（1989年）にはおよそ818万人もの人が訪れたが、そこから年々減少傾向を辿っている。平成30年（2019年）には、およそ175万人まで落ち込んでしまっていた。そして2020年3月から感染が拡大した新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、半分以下にまで落ち込んでいる現状である。

図7 目的別宿泊数の推移



出典：湯沢町観光統計

<https://www.town.yuzawa.lg.jp/soshikikarasagasu/sangyokankobu/kankoshokoka/2/1/1006.html> 2021.11.13 アクセス

図7は湯沢町の目的別宿泊客数の推移を示しているグラフである。1998年から2018年までの資料であるが、1998年から、2010年頃まで徐々に宿泊客数が減少していることが分かる。しかし、そうした中でもスキーの観光客の減少具合に比べてスキー以外の観光資源はそこまで減少していない。そこから比較的多角化が進んでいることが分かる。

第3章 本論

3-1 湯沢町の魅力

① 交通アクセス

湯沢町は、東京からのアクセスが良好なことで知られている。上越新幹線をはじめ、上越線、さらには北越急行ほくほく線の大半の列車が停車する新潟県南部のターミナル駅があり、東京からは1時間程度で着くことができる。

図8 湯沢町 地図



出典：湯沢町観光協会 HP <https://www.e-yuzawa.gr.jp/>

2021.11.14 アクセス

・車での所要時間

東京～月夜野間

約1時間25分（苗場まで35分）

東京～湯沢間（167 km）

約1時間50分

新潟～湯沢間（131 km）

約1時間30分

金沢～湯沢間（339 km）

約4時間

・上越新幹線での所要時間

新潟から：約50分

東京から：約 70 分

車では、関越自動車道を使うと、東京の練馬 IC から湯沢 IC まで、2 時間程度で着くことができる。そうしたアクセスの良さから、日帰りでスキーやスノーボードなどを楽しむ観光客が多く、差別化を図っていると言える。

② 雪国ならではのスキー、スノーボード天国

湯沢町は、日本でも有数の豪雪地帯であり、柔らかいパウダースノーが魅力のエリアである。

町内には、全部で 12 のスキー場を有している。(休業中の 1 施設を含む。) 子供向けの雪遊びエリアや、なだらかなワイドバーンを擁する初心者向けコースから、国際大会を行う上級者向けコースまで幅広い利用者が楽しめる多様なコースが揃っていることが魅力である。



↑ 苗場スキー場



↑ 神立スノーリゾート

表 1 は、スキー場ごとの観光客数である。全国でも有名なビッグスノーリゾート地である苗場スキー場を始め、新幹線の駅と直結している GALA 湯沢スキー場などを筆頭に、多くの観光客が集まっている。これまで述べてきたようにスキーの人気は落ちてはいるものの、湯沢町にとってスキーは大事な産業の一つとなっている。

表 1 スキー場利用者調べ(2018-2019 シーズン)

【月別】

単位：人

スキー場名	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
苗場スキー場		83,300	238,250	229,770	156,630			707,950
かぐらスキー場	4,900	70,000	56,000	56,800	70,500	60,000	37,700	355,900
湯沢中里スノーリゾート		17,480	51,170	54,690	39,900	660		163,900
中里スノーウッドスキー場		9,410	20,310	18,200	17,400	1,520		66,840
湯沢パークスキー場		2,880	11,230	13,830	9,000			36,940
岩原スキー場		27,000	115,000	120,000	55,000	1,500		318,500
神立スノーリゾート		24,170	56,530	64,650	53,770	14,170		213,290
N A S P A スキーガーデン		12,050	28,000	27,620	18,350			86,020
一本杉スキー場		1,350	3,390	4,310	2,310	50		11,410
湯沢高原スキー場		9,070	30,730	30,800	21,110			91,710
G A L A 湯沢スキー場		39,670	84,850	98,440	73,340	33,380	6,050	335,730
湯沢町 計	4,900	296,380	695,460	719,110	517,310	111,280	43,750	2,388,190

出典：湯沢町観光統計

<https://www.town.yuzawa.lg.jp/material/files/group/9/201819suki-jyoubetu.pdf>

2021.11.13 アクセス

③ 温泉

越後湯沢温泉は、1931年の上越線開通に伴って本格的に堀削が始まり、現在の越後湯沢駅周辺の温泉街につながる基礎ができ、湯沢町の魅力となっている。

また、街中心地から車で20分ほどの場所にある貝掛温泉は、文献上は室町時代から続く歴史ある名湯として知られ、戦国時代は上杉謙信の隠れ湯として、江戸時代からは「目の温泉」として親しまれていた。町内にはその他にも「街道の湯」などの共同浴場や足湯施設がある。

・湯沢町のスキー、温泉以外の観光スポット

① 歴史、文化財

川端康成の小説「雪国」、湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」では、雪国湯沢の暮らしぶりや歴史を中心とした展示と、小説「雪国」の世界を様々な展示で紹介している。

江戸時代に栄えた三国街道の三俣宿は、本陣と脇本陣三軒を合わせて「四軒問屋」と呼ばれている。四軒のうち本陣は跡地しか残っておらず、江戸時代の建物として残存しているのはかつて格式の高い人が宿泊した「上段の間」など、貴重な建造物など見学することができる。新潟県指定文化財であり2018年に町に寄贈されている。

② 八海山のグルメ、お酒

越後湯沢駅前には、お酒好きに有名な観光地「越後のお酒ミュージアム ぽん酒館」がある。そこでは新潟県内全酒造の日本酒をそろえており、ワンコインで少量ずつ利き酒をすることができる。かぐら南蛮、ズッキーニ、キノコ類など、質の高い農産物を生産している。特にコメは、周辺市町村と比較しても一等米比率が高く、品質において高評価を得ている。他にも、日本酒の酒造体験に参加できる「塩沢宿牧之通り」やご当地グルメを味わえる飲食店やお土産ショップが集まる「魚沼の里」といった、魅力的な観光スポットが充実している。

雪国の知恵を活かした貯蔵や発酵を特徴とする食文化があり、町内では「雪国ガストロノミーツアー」等を楽しむことができる。越後湯沢駅構内にある「ぽんしゅ館」では新潟県の誇る様々な日本酒を試飲することができる人気スポットとなっている。

3-2 どのように多角化を図るのか

この章では、多角化戦略について①スキー、スノーボード②それ以外の観光資源の2つの要素を軸に検討していく。

① スキー、スノーボード

湯沢町のスキー、スノーボードの面では、取り組むべき課題は4つある。

1つ目は、越後湯沢駅案内所の観光拠点化である。越後湯沢駅は、周辺観光の拠点であることから、駅案内所（広域観光情報センター）には多くの外国人が訪れるが、業務は案内にとどまっており、顧客の満足度向上や消費額増にはつながっていないことが現状である。その為、インフォメーションセンターからの発信の強化、デジタルサイネージを用いたスキー場の情報発信が求められる。他にも駅案内所の機能強化を図って着地型旅行商品の相談、販売から受付、集合場所として使えるよう大型化、JR 上越線を二次交通・三次交通としての活用観光拠点としての整備費用に対する支援を要請している。

2つめは、スキー場のゲートシステム、共通リフト券化である。

湯沢町内のスキー場にはゲートシステムやリフト券の共通化も実現されていない為、街が望む長期対応にほとんど対応できていない。また、東京から2時間で行けるアクセスの良さもあり、長期滞在する観光客が少ないことが現状としてある。その為、長期滞在できるようにいくつかのスキー場の共通リフト券の販売に向けての議論が進められているが、一つ一つのスキー場を管轄する企業が異なる為、客足がもう一つのスキー場に取りられてしまうことの懸念などもあり、実現は今時点では困難である。

3つ目は、スキー場施設の老朽化である。湯沢町内のスキー場は、建設から30年以上経過した索道施設や建築物が多く、老朽化が進んでいる。その為、景観を損ねる不要索道等の施設の撤去や、増加する雪遊びの対応の為に索道等施設新設が必要とされる。

そして4つめは、スキー、スノーボード以外の観光客（主にインバウンド客）の対応であ

る。アジア地域からのお客様は雪遊びや絶景での写真撮影がスキー場に来る目的が多い。それらの観光客の受け入れ対策を施すのが急務である。

例) 雪遊びのソフト開発、板類未着用のお客様のリフトへの上下線乗車化への改修、ビュースポットの整備、ナイトエコノミーの認証実験など

これらの課題が解決すれば、湯沢町のスキー来場客増加が期待できる。⁷

また、他にもスキー、スノーボードの面でこれから期待できることがいくつかある。まず一つは、「新しいウィンタースポーツの振興」である。それらをいくつか紹介していきたい。

1, スノーフィート



スノーフィートとは、スキーとスケートを新たに組み合わせた新しいスポーツである。靴よりも少し大きめのスノーボードのビンディングのような物をブーツに装着して、雪山や雪道を滑走する。スノーフィートは、ビンディング形式なので、簡単にウィンターシューズやスノーボードブーツに取り付け可能で、板も大きくないので転んでも受け身がとりやすく安全でコントロールしやすく、比較的簡単に滑ることができる。以上のようにスノーフィートは便利で、簡単にできるスポーツの為、これから発展する可能性を秘めていると筆者は考える。湯沢町内においても、既に苗場スキー場、岩原スキー場、神立スノーリゾートなどの7つのスキー場で滑走可能になっている。

⁷ スノーリゾートとしての湯沢町

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/content/001329204.pdf>

2021.12.25 アクセス

2, スノースクート



スノースクート（スノーバイク）は1991年にフランスで誕生した新たなウィンタースポーツである。日本では1995年頃に上陸したそうである。スノーボードに自転車のハンドルがついた乗り物で、雪山を滑走する。ハンドルがあることにより、スキーやスノーボードよりもコントロールしやすく、自転車に乗れる人なら簡単に滑ることができる。湯沢町内では、かぐらスキー場、神立スノーリゾート、一本杉スキー場が現在滑走可能なスキー場である。値段は、少し高めで、平均15～16万かかる。⁸

そしてもう一つは、インバウンドの観光客である。2020年に世界中に広まったコロナウイルス感染症が落ち着けば、これからインバウンド観光客（外国人観光客）に期待できると考える。海外にない「雪」がある湯沢のスキー場を求めて多くの外国人観光客が来日すると考える。その場合に、湯沢町では外国人でも行きやすいように越後湯沢駅の発信強化などが求められてくるだろう。

② スキー・スノーボード以外の観光資源

日本の今の情勢として、先行研究として述べた白馬村を筆頭に、かつてのスキー場で栄えた町は多角化を図ってきている。湯沢町もスキー、スノーボードのみで街づくりを行うのではなく、多角化を図るべきなどは前提としていえるだろう。実際、湯沢町ではグリーンシーズンや冬のスキー以外の観光の取り組みが行われている。では、湯沢町のグリーンシーズンの観光地はどのようなものがあるのだろうか。いくつか紹介していく。

1,湯沢高原アルプの里・湯沢高原ロープウェイ

⁸ 人気のウィンタースポーツ！スノースクート（スノーバイク）完全ガイド

<https://activityjapan.com/feature/wintersports-snowscoot/> 202112/31 アクセス

トレッキング、ウォーキング、ジップラインアドベンチャーなどのアウトドアが楽しめるスポットとなっている。越後湯沢の温泉街から徒歩圏内で、アルプの里までを7分で繋ぐロープウェイは全長1600mで、世界最大級の166人乗りである。ロープウェイで着いたアルプの里は、標高1000mの山頂植物園で、様々な花を観賞可能である。他にも、サマーボブスレーやミニゴーカート、ゴロネの原などのファミリースポットやレストランが沢山あるスポットである。

2,清津峡

黒部峡谷や大杉谷とともに日本産大峡谷の一つとして知られる清津峡は川を挟んで切り立つ巨大な岩壁は全国に誇るV字型の大峡谷を作り、国の名勝・天然記念物にも指定され、インスタグラム映えするスポットとして若者にも人気のスポットである。

3,フジロックフェスティバル

1999年から、湯沢町にある苗場スキー場で7月下旬から行われている。(それまでは山梨県の富士山天津山スキー場で行われていた)

日本のロックフェスティバルの先駆けで、世界200組以上のアーティストが集う日本最大規模の音楽ロックフェスである。

毎年この時期には、10万人ほどの観光客がこのイベントに集客され、湯沢町にとって大事な観光イベントになっている。

4,苗場山

「日本百名山」「花の百名山」に選ばれ、約4キロメートル四方の広く平坦な頂上と、そこに広がる湿原が魅力の山で、人気の登山スポットである。

5,湯沢フィッシングパーク

湯沢インターチェンジから車で約10分の場所にある施設で、そこではイワナやヤマメ、ニジマスなど気軽に溪流釣りが楽しめる。釣った魚はそのまま焼いて食べることができる他、つかみ取りやBBQもあり、家族みんなで楽しめるスポットとなっている。

6,大源太湖

大源太川を日本初のアーチ式ダムでせき止めて作られた湖で、気軽に自然を楽しむネイチャースポットであり、カヤックやボート、BBQなどが楽しめるスポットとなっている。また、秋には紅葉の名所にもなっている。

このように、グリーンシーズンの湯沢町には数多くの観光スポットがある。それでは、こうした観光スポットは湯沢町の観光資源の中でどれほどの影響力を持つのだろうか。

図 10 は、湯沢町の観光資源の認知度を示したグラフである。「来訪」は、1 回でも湯沢町を訪れたことのある人を対象にしたアンケート調査で、「非来訪」はそうではない人を対象としている。

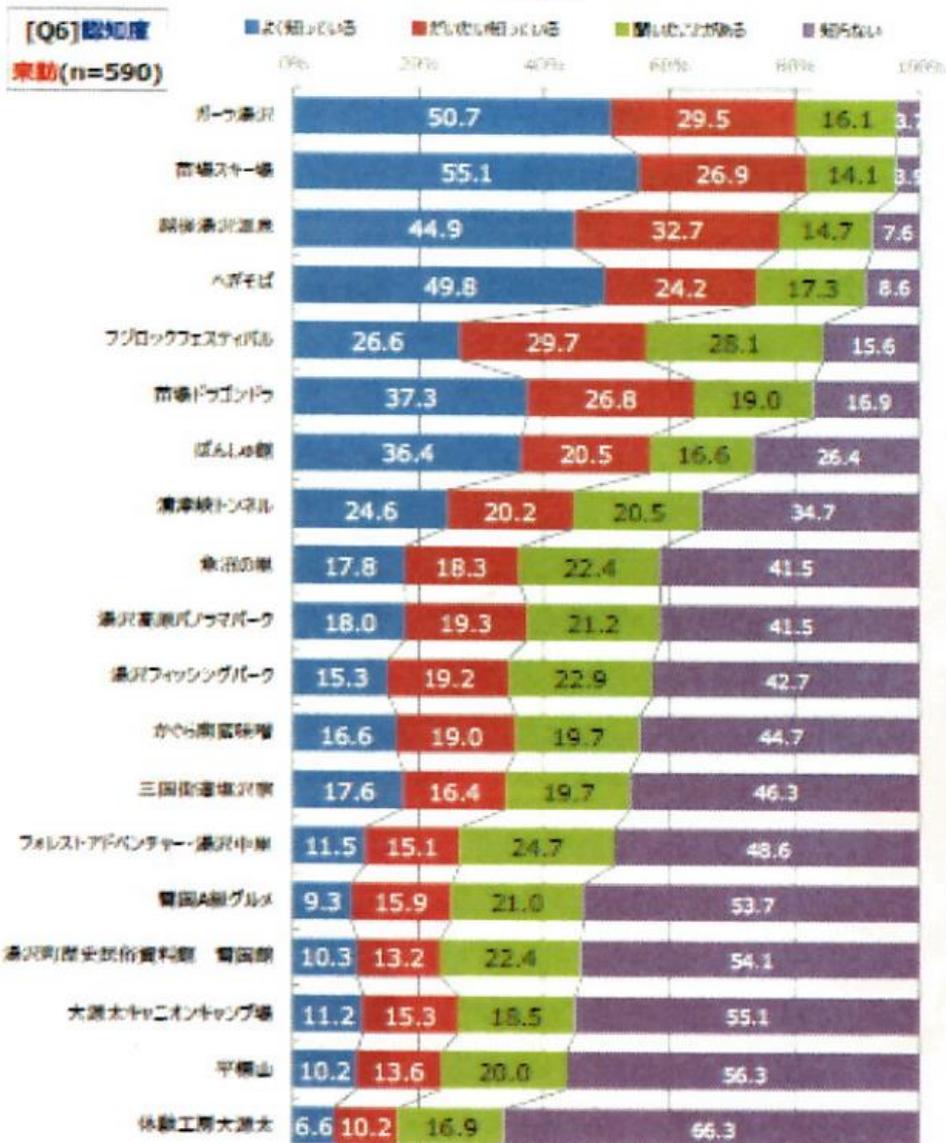
「来訪」の項目においては、ガーラ湯沢、苗場スキー場、越後湯沢温泉などの認知度が高い。一方それらに比べて、清津峡トンネルや湯沢高原パノラマパーク、フォレストアドベンチャー湯沢中里などの夏季に人気の観光資源は、あまり知られていないのが現状である。

「非来訪」の項目においてはより顕著で、苗場スキー場、へぎそば、ガーラ湯沢スキー場、越後湯沢温泉においては良く知られているが、それ以外の資源はほとんど知られていないのが現状であることがわかる。

このように、グリーンシーズンの湯沢町は多くの観光資源が揃っているのだが、それらはスキーシーズンよりも知名度が劣っていることが現状である。

図 9 湯沢町の観光資源の認知度

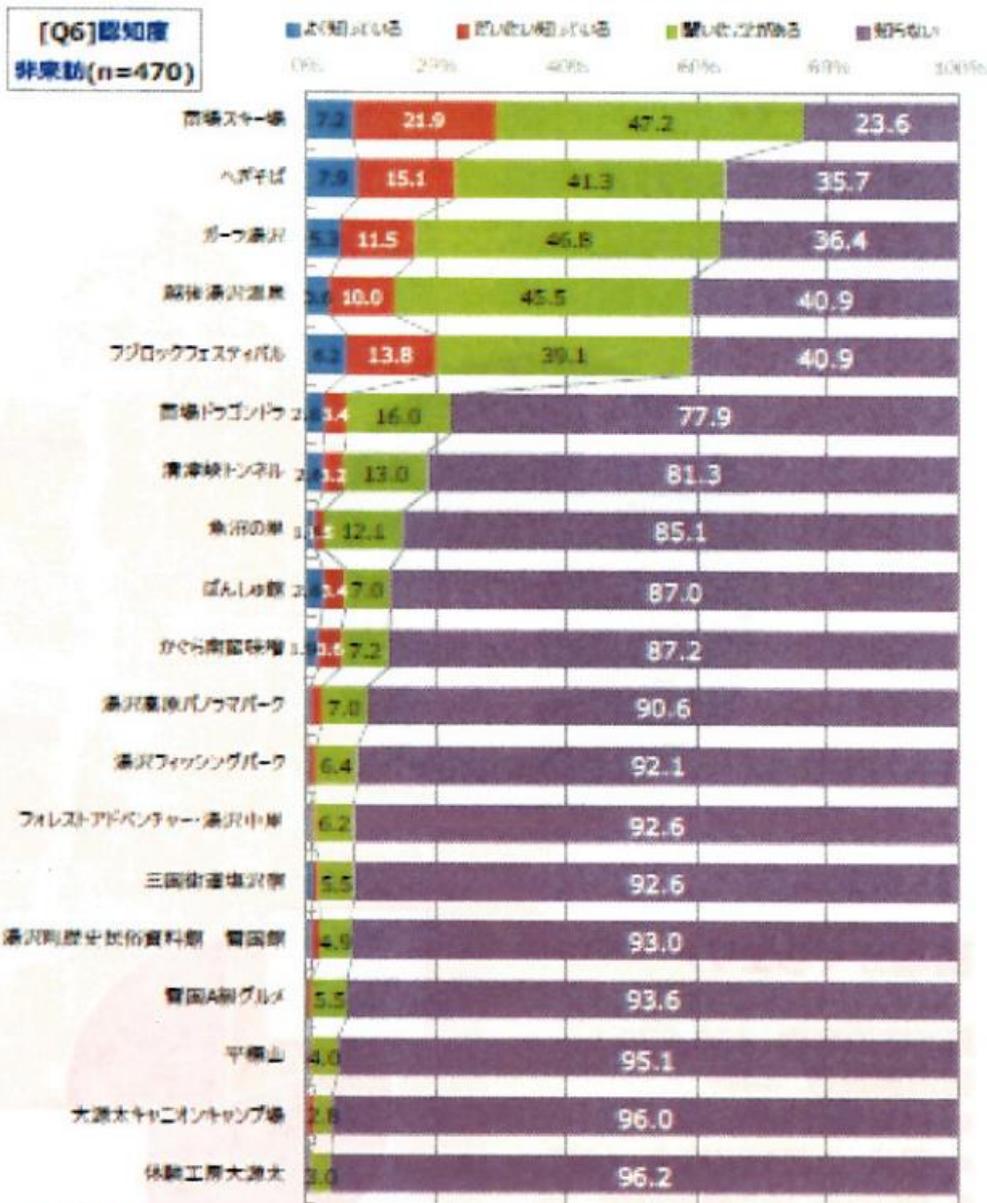
来訪



(C) Recruit Lifestyle Co., Ltd.

● 湯沢町

非来訪



GAP調査

出典：湯沢町GAP調査報告書2020年（じゃらんリサーチセンター）

21

出典：湯沢町 GAP 調査報告書 2020（じゃらんリサーチセンター）

https://jrc.jalan.net/surveys/accommodation_travel/ 2021.11.17 アクセス

しかし、そうした中でスキーとしての湯沢町でなく、他の町を巻き込んで「雪国」としての魅力を伝えていく DMO がある。

- ・雪国観光圏事業（湯沢町が帰属する観光 DMO）

日本の中での豪雪地帯として、新潟県魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県のみなかみ町、長野県栄村の7市町村で構成されている広域観光圏で、平成20年に設立された。雪国観光圏のマネージャーである井口代表理事によると、「スキー客や温泉客が減少していく中、次の世代が誇りを持って地域に帰ってくる場所になるために、そして100年後にも雪国になるために地域の本質的な価値を作るために設立した」そうだ。

このDMOが設立された要因として、2008年に、東京～金沢をつなぐ北陸新幹線が2014年に開通することが決まったことが挙げられる。かつてから東京からのアクセスの良さを魅力にしてきた湯沢町だが、北陸新幹線の開通によりその魅力が失われる危機感を抱いたからである。

・ブランドコンセプト

雪国観光圏のビジョンは、「100年後も雪国であるために」である。

ビジョンを達成するための具体的な、クレド（価値基準）は以上になっている。

- ・世界レベルで通用するための「価値」を追求していきます
- ・持続可能であり、中長期にわたりブランド構築できる事業を重視します
- ・地域や立場にこだわらず、お客様にとっての価値を重視します
- ・雪国ならではの文化を大切にし、先人の知恵を学びます
- ・広域に点在するものをつなぎ合わせ、新しい価値を生み出します
- ・古いものを磨き上げ、新しい価値を生み出します
- ・豊かな自然や地域固有の資源を残すための環境保全に尽力します

このように、雪国観光圏としては、スキーや温泉を利用している客だけに依存するのではなく、「雪国の文化」そのものの魅力を発信していこうという取り組みがなされている。

具体的な事業は以下のようにになっている。

～主な事業～

1.スノーカントリートレイル

雪国観光圏3県7市町村の古道や山岳路をつなぐ全長307キロのロングトレイルである。“郷と郷をつなぎ、人と人がつながり、未来を紡ぐ”という理念のもと、トレイルを基点に人々の知恵と知恵をつなぐ場を設け、地域の住民やボランティアがコース運営や環境保全に参加する機会を作っていく。

2.雪国A級グルメ

雪国観光圏には、長い歴史に育まれた独特の食文化が息づいている。山野の恵みを塩漬けや乾燥品、発酵食として蓄える。あるいは、雪室で冷温貯蔵するなど、雪国ならではの知恵が食文化に宿っている。こうした雪国ならではの食材を活かした、本当の食を味わってもらおうというのが「雪国A級グルメ」である。A級といっても高級食材ではない雪国の食材

を使い、化学調味料や必要以上の添加物に頼らない、伝統の料理法で作ったおいしい料理を安心して食べて頂くために、5つの条件を設定して、該当しているものを「雪国 A 級グルメ」として認定している。条件としては、

- ・雪国の気候風土が活かしたおいしい食を自らの店や宿で作っていること
- ・原材料のすべての情報を公開できること
- ・雪国観光圏内の食材を積極的に使用していること
- ・消費者の安全とおいしさを第一に考え、原産地や添加物にまで気を配っていること
- ・「雪国 A 級グルメ」認定の一次産品、加工品を積極的に使用していること

が挙げられている。

3.国際的な基準を取り入れた品質認定評価「サクラクオリティ」

サクラクオリティは、外国人旅行者に、質の高い日本のサービスに関する情報提供を行い、安心して快適な旅行を楽しめるように、宿泊施設の観光サービスの品質を評価し、その品質の高さを保障する制度である。第三者が非公開の調査項目により調査する「格付け」や、消費者がそれぞれの視点で評価する「口コミ評価」とは異なるものである。

・雪国観光圏のフリーペーパー「雪と旅」

雪と旅は、新潟県魚沼市、湯沢町、南魚沼市、十日町市、津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村の3県7市町村にまたがる雪国観光圏のフリーペーパーである。この地域は8000年もの昔から雪国であり、はるか縄文の頃から、気の遠くなるような長い年月を先人たちは真白き世界に暮らしてきた。そこで育まれた生活の知恵は、この土地にいまなお息づいている。雪と旅では、「真白き世界に隠された知恵と出会う」をコンセプトに、こうした雪国のストーリーを紹介している。

これらの「雪国文化」としての取り組みは、他の町ではないものであり、差別化を図れているといえると筆者は感じている。実際に、雪国観光圏が発足した2008年から、コロナウイルスが蔓延する2020年までは売上が右肩上がり、順調であったが、コロナウイルスが蔓延してからはウイルスの影響を大きく受ける形となった。政府が打ち出したGo Toキャンペーンの取り組みによってそれなりに観光客は呼ぶことができたものの、赤字となってしまった。⁹

・これからの展望

雪国観光圏の細矢氏によると、コロナウイルスが落ち着いても蔓延する前の状態に完全に戻すのは難しいと指摘していた。しかし、これからワーケーションの変化によって通信環

⁹ 雪国観光圏インタビュー（電話）2021年10月19日

境が良好であればどこでも仕事ができるようになったことから湯沢町に長く滞在して頂ける観光客の増加や、インバウンドの観光客に期待できるそうである。

※ワーケーションとは、「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語である。テレワークを活用し、観光地やリゾート地に滞在したまま仕事ができるようになることを指す。

・現状、課題

雪国観光圏は以上のように様々な事業を行ってはいるが、収益からなる資金は十分とは言えない状況である。雪国観光圏の職員が、人件費を十分に頂けていない為、これからさらに拡大していくために新たな人材を雇うことが難しい状況となっている。また、現在「雪国文化」を味わうツアーはいくつかあるものの、スキー場と合わせたツアーはまだない。これからスキー場と雪国観光圏を組み合わせたツアーなどができれば、さらなる湯沢町の発展に繋がるのではないかと。スキー場を目的に訪れる観光客には雪国文化を、雪国文化を訪れる人にはスキー場の良さを紹介していけば、湯沢町に長く滞在してもらおうと、宿泊業や飲食業の業績も良くなり、湯沢町が発展していくだろうと細矢氏も期待していた。

第4章 提言

先行研究の白馬村や日本のスキー場の情勢を考えると、スキーだけでない多角化が必要なのは前提であると言えるだろう。実際、湯沢町観光まちづくり機構から調査員を白馬村に派遣し、先進地として見ているようだ。そこで、湯沢町の強みなどを考えてみると、「雪国文化」は他にない湯沢町の強みだと筆者は考える。

半年近く雪に閉ざされた地域で冬を越すための知恵を駆使し、早春から晩秋にかけて採取した山野の恵みを塩漬けや乾燥品として発酵食として蓄える食文化を堪能できる「雪国ガストロノミーツアー」や雪国特有の湿度のお陰で糸が切れにくいことから長く行われている織物文化は縄文時代の布アンギンからユネスコ無形文化遺産の越後上布まで傳承されている文化を体験するコースもある。「雪国文化」を紹介する様々なツアーがあるが、スキー場と連結して行うツアーはまだ開発されていない状況である。その為、筆者は、そうした雪国文化とスキー場が協力して、両方楽しめるツアーを提案したい。具体的には、現在行われているこうしたツアーにスキー場関連のイベントを設け（スキー用具レンタル&リフト券の配布など）、スキー場には案内や看板などでなく口頭でもこうしたツアーを紹介する。それだけでなく、地域の魅力を幅広く発信するために、都心の広告代理店などの協力を得て、湯沢町からこうした文化を日本中に発信していくことを期待する。スキー場やツアーのみに訪れた観光客をターゲットに誘致がうまくいけば、そうした観光客の長期滞在が可能になり、宿泊業界や飲食業の業績の上昇が期待できる。そして滞在した観光客に湯沢町のファンになってもらうことでリピーターとしてさらなる経済活性化が期待できる。そうした観光客が働き手として活躍してもらえるかもしれない。確かにコストやスキー場経営の面などを考慮したらできるかはまだわからないが、もし成功したら新しい「雪国文化の玄関地湯沢町」の魅力を感じ、絶大な効果を果たしてくれるのではないかと考えている。

第5章 結論

結論からいうと、多角化を図るのは前提として、スキーとその他観光資源が協力し合った体制が必要になってくると考える。その為、玄関口となる越後湯沢駅からの発信の強化や二次交通の発達などの必要が出てくる。

参考文献

柳原秀哉 2021 『「南小国町の奇跡」稼げる町になるために大切なこと』
cccメディアハウス

参考 URL

湯沢町 目的別観光客調べ

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/235965.pdf> 2021.12.1 アクセス

湯沢町観光振興計画（案）

https://www.town.yuzawa.lg.jp/material/files/group/3/sangyo_keikaku.pdf
2021.10.12 アクセス

スノーリゾートとしての湯沢町

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/content/001329204.pdf>
2021.10.3 アクセス

マイナビニュース

「1990年代をピークに衰退してきた日本のスキー産業に再浮上はあるのか？」

2015年10月1日発行

<https://news.mynavi.jp/article/20151201-ski/> 2021.11.12 アクセス

日本におけるスキー観光の衰退と再生の可能性

https://www.jstage.jst.go.jp/article/chirikagaku/64/3/64_KJ00005756204/_pdf/-char/ja
2021.12.10 アクセス

呉羽正昭 地理化学 2009年

日本スキー人口はどこまで滑落するのか？

<https://core.ac.uk/download/pdf/71785748.pdf>

2021.10.10 アクセス

レジャー白書

<https://www.mlit.go.jp/common/001260799.pdf>

2021.12.11 アクセス

湯沢町観光振興計画

https://www.town.yuzawa.lg.jp/material/files/group/9/sankan_kankoukeikaku.pdf

2021.10.23 アクセス

スキー場の衰退、活性化のためのヒント

<https://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/kishakonndannkai/310311/siryoku4.pdf>

2021.12.1 アクセス

白馬村 入り込み客数調べ

[https://www.vill.hakuba.lg.jp/material/files/group/7/tourism\(H2-\).pdf](https://www.vill.hakuba.lg.jp/material/files/group/7/tourism(H2-).pdf)

2021.12.3 アクセス

・あとがき

筆者がスキー・スノーボードの衰退と湯沢町のこれからについて調査をしようと考えたきっかけとしては、昔から家族とスキーに行っており、2021年の大学4年生当でも友達と年に5回ほどスノーボードをしに行くほど好きであったからである。そして、その中でも湯沢町にある苗場スキー場や神立スノーリゾートが好きで、よくお世話になっていた。そこでスキー・スノーボードブームが衰退しているという記事を目にし、一抹の寂しさを感じると共に、昔から好きだった湯沢町はこれからどのようなようになっていくだろうといった疑問を覚えた。その為、卒業論文で湯沢町のこれからについて調査しようと考えた。結果、湯沢町を取り巻くいろいろな方のご協力もあり、卒業論文を無事作成することができ、未来のことは何もわからないながらも筆者が抱いていた疑問を解決することができ、とてもうれしく感じている。

最後に、この卒業論文の作成に協力して頂いた湯沢町町づくり機構の立川龍太郎氏、雪国観光圏の細矢氏には深く感謝申し上げます。また、卒業論文のアドバイスや添削をしていただいた小関隆志先生にも深く感謝申し上げます。